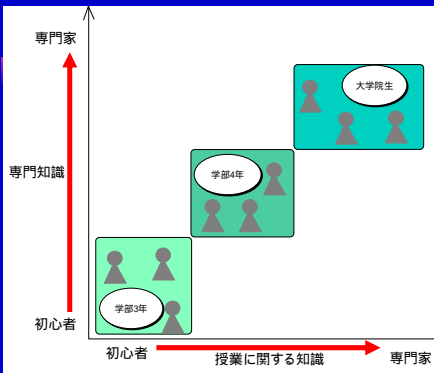


# 電子掲示板を活用した家庭科教育 兵庫教育大学の事例

兵庫教育大学 永田智子

## 実践の背景

- 兵庫教育大学
  - 教員養成系単科大学
  - 学部・修士・博士課程がある
  - 学部生は小学校免許取得が必須（全員が教師の卵）
  - 修士課程の大学院生の2/3は現職教師
- 担当授業
  - 家庭科コースに所属する学部3年，4年，大学院生の家庭科教育科目の授業を担当



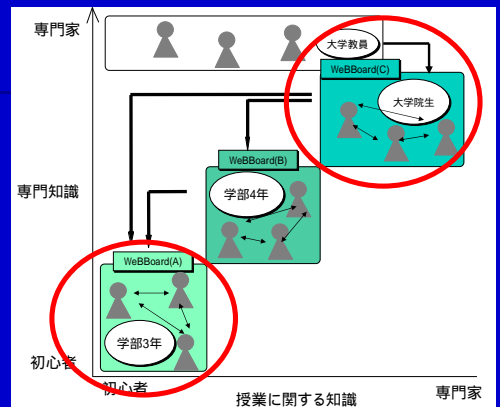
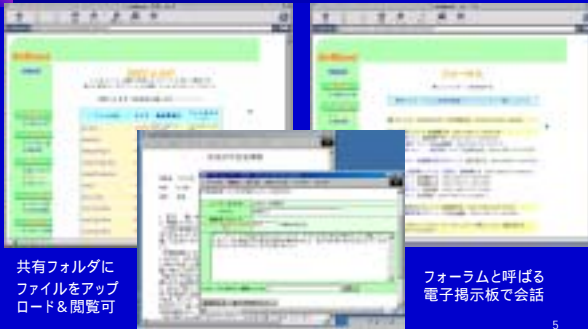
- 大学院 (7名) 現職教師を含む
- 4年 (12名) 教育実習経験あり
- 3年 (13名) 教育実習経験なし

## 研究的な背景

- ティーチング・ポートフォリオ
  - 学習指導案や評価など，教育実践に関する情報をあつめたもの
  - 教師教育の有効な道具として注目されている
  - 作成過程における会話が学習効果に影響
- 3年・4年・大学院生を交流させることを計画
- 対面交流できないので電子掲示板を活用
- 従来型の紙メディアではなく全てのファイルを電子化しWeb上にアップロード

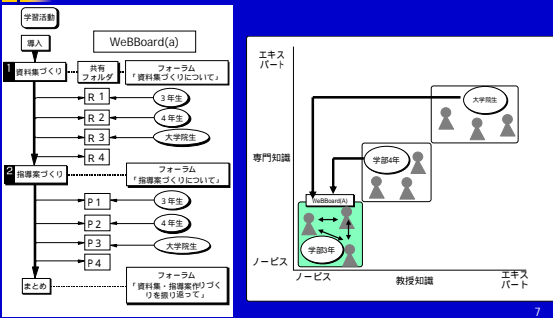
## WeBBorad

- ファイルアップロード機能，電子掲示板機能，等をもつWebアプリケーション



# 学部3年生の授業概要

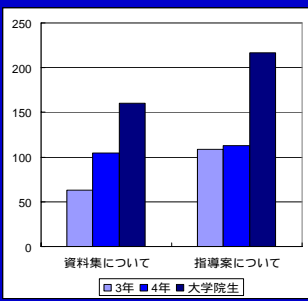
- 13人が6グループにわかれ学習指導案等を作成
- 4年生と大学院生が段階的に参加



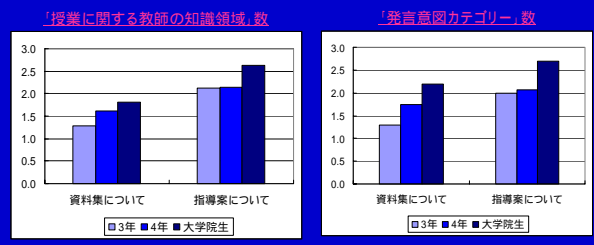
# 3年生のふりかえりから

- (略) 自分たちは毎回今度こそ完璧だと思って変えていったのですが、先輩や院生さんのコメントから新たに気付かされることが本当に多く、この指導案は、自分たちだけでは作れなかったらと思います。この授業で指導案を作る大変さを知りました。(略) (3年IK, 2001/7/24, 10:18:20)
- (略) 大量の時間と労力(?)を使って、やーっと1つの指導案が出来上がった訳で・・・しかも、たくさんの先輩方や院生さんのアドバイスに支えられながら、何とか形にはなったかな? というような感じでした。(略) (3年生NC, 2001/7/31, 11:16:32)

# 発言の量



# 発言の種類



# 授業に関する教師の知識領域

- 教材内容についての知識
- 教授方法についての知識
- 生徒についての知識
- 教材内容と教授方法についての知識
- 教材内容と生徒についての知識
- 教授方法と生徒についての知識
- 教材内容, 教授方法, 生徒についての知識

# 発言意図カテゴリー

- 提起: 問題・話題の提起など, 新しい話題の提示
- 説明: 現在話し合われている話題に関する付加情報や詳細情報の表明
- 同意: 賛成の立場表明
- 非同意: 反対の立場表明
- 質問: 他者に対する質問
- その他

## 4年生・大学院生のふりかえりから

- 指導案を作成するにあたって様々な資料をあつめながらじっくりと指導案を検討していくようすがわかり、4年生でありながらこちらが学ぶところが多かったです。先輩として十分なコメントができなかったことによって自分の未熟さがよく分かりました(4年YT)
- 自分が高校で働いているので、小・中学校の教え方、内容などわからないことばかりで、コメントは非常に難しかったです。ただし、校種間での連携とか口では言っておきながら、小・中の内容を知らなかったでは済まされないことだと、これも反省しました。(略)(大学院TM)

13

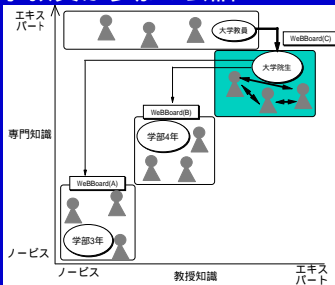
## 3年生の授業についてのまとめ

- 電子掲示板を用いて3年生の学習に、上学年生を参加させたことは、3年生にとって効果的であった
- 4年生や大学院生にも、学習効果があった

14

## 大学院の授業概要

- 学習指導案を作成
- 大学教員が参加し会話



15

## 大学院の授業用サイト参加者

- 大学院生7名
  - 現職教師3名(小学校1名,高等学校2名)
  - 非常勤講師経験者1名
  - 教育実習経験者3名
- 大学教員5名
  - 教科専門4名
  - 教科教育(授業者)1名

16

## 大学院生の事後調査から


- 指導案のバージョンアップを行っていて、とても印象深かったのは、自分の使っている言葉や表現がいかに主観的であったかに気付くことができたという点です。客観的な目で見ていただいた他人からのコメントがとてもありがたく重要なものであることを知ることができました。また、様々な形態、内容の指導案を見る機会にもなり、これから自分が何を勉強していかなければいけないかを知る手がりにもなりました。自分の指導案がバージョンアップされていく様子だけでなく、仲間の指導案がバージョンアップされていく様子も見る事ができ、自分へのコメントだけでなく、AさんからBさんへのコメント、BさんからAさんへの返事までも見ることができ、同じ1時間であっても何倍も密度の濃い時間を過ごせたと感じられる時のような感想を持ちました。コメントの相互作用のようなものを感じて、自らが成長し、他者の成長の一端を担うことができたような感覚もった(大学院YY 2001/7/19 11:52:28)

17

## 大学教員への事後調査から

- メリットについては、院生の考え方、問題関心の所在がわかったことですね。普段、私が担当している講義では見えない部分を知ることができた点で有意義なものでした。(略)(大学教員FY)
- (略)こちらが期待するほど、現場では指導できない(教師の腕というよりも、生徒のレベルを私的に把握していないことによる)という実状がわかった点は、よかったかな。(略)(大学教員KE)
- KE先生の適切なコメントが勉強になりました(大学教員KE)

18



## 大学院の授業についてのまとめ

- 大学院生の学習指導案が改善
  - 大学院生同士の会話後は、形式面が改善
  - 大学教員との会話後は、内容面が改善
- 他者の学習指導案に対して的確なコメントができるようになった
- これまでの教育活動を反省した
- 参加した大学教員にもメリットがあった